



2026 年 2 月 9 日

持続可能なサプライチェーン構築に向けて おにぎり等の製造回数削減の取り組み

～約 60 アイテムを対象に北海道エリアにて 2 月 9 日（月）より開始～

株式会社セブン-イレブン・ジャパン（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：阿久津 知洋、以下「当社」）は、人口減少や高齢化などによるさまざまな社会環境の変化が進む中、持続可能なサプライチェーン構築に向けた取り組みの一つとして、北海道エリアにて 2 月 9 日（月）より、製造工場における効率化等を目的とした、商品の製造回数削減の取り組みを開始いたします。

本取り組みは、セブン-イレブンにおけるオリジナルフレッシュフードのうち、販売構成比の高い商品群であるおにぎり・弁当・サンドイッチの約 60 アイテム[※]について、北海道エリアにおける製造回数を、これまでの 1 日 3 回から 2 回に新たに削減するものです。これにより、北海道エリアにおけるすべてのオリジナルフレッシュフードの製造回数が 2 回以下となります。

今回、産学連携による新技術の活用によって、原因菌の特定と汚染経路の調査が可能になり、製造時の衛生レベルがさらに向上したことで、品質・美味しさを維持した鮮度延長が実現し、製造回数の削減につながっております。

北海道エリアにおいては、商品供給面で製造効率の低さや長距離輸送、製造工場における雇用面での課題を抱えていたことから、全国に先んじた新たな挑戦として、本取り組み開始に至りました。「製造効率の向上」「輸送効率の向上」「フードロス削減」「CO2 排出量削減」といった効果も期待しております。

これまでも当社では環境や社会課題が変わりゆく中で、配送回数の削減やリードタイム延長などに取り組んでまいりました。今後も物流課題の解決に向けて継続した取り組みを進めてまいります。

※北海道エリアにおける 1 月 26 日時点の対象アイテム数

<北海道エリアにおける製造回数の削減について>

■対象カテゴリー 1 日 3 回製造カテゴリーを 1 日 2 回製造（深夜便・午後便）へ集約

オリジナル フレッシュフード		深夜便 AM2～5	午前便 AM8～11	午後便 PM14～17
主要カテゴリー	おにぎり・弁当	●	●⇒× ※寿司などはすでに 2回製造対応済み	●
	サンドイッチ	●	●⇒×	●
	麺類	/		●
	惣菜・サラダ			●
	惣菜パン・菓子パン	●	/	

※今回の取り組みでは、店舗への総配送回数の変更はございません

■対象アイテム

米飯（おにぎり、弁当）・調理パン（サンドイッチ） 合計 約 60 アイテム

※北海道エリアにおける 1 月 26 日時点の対象アイテム数



▲対象商品の一例

■期待される主な効果

製造効率の向上

- ・設備稼働率の向上
 - ・人員配置の最適化
 - ・品質管理の向上
 - ・衛生管理の向上 等
- 製造労務費 約10%削減**

フードロスの削減

- ・製造回数の集約により
毎便発生する余剰原材料が減少
- フードロス 約10%削減**

輸送効率の向上

- ・輸送回数の集約
 - ・積載効率の向上 等
- 輸送コスト 約15%削減**

環境問題への対応

- ・工場⇒物流センターへの
輸送便積載率の向上と
輸送回数減少により
- CO2排出量 約20%削減**

※各数値は、一定の前提条件に基づいて計算した理論値（予測値）です

<ご参考：これまでの取り組みの一部>



・新規商品 1 週間前発注

新規商品の発注日を変更することで、1 週間前に発注数が確定し各エリアの在庫を適正化

・定時納品の緩和

2023 年に納品に関するルールを策定したことで、加盟店のご理解のもと、納品予定時刻に関わらず納品が可能となり、荷待ち時間削減・配送員の拘束時間削減

・夜間納品便の集約（日配品） 25 年 3 月時点：9,500 店舗にて実施中

おにぎりやサンドイッチなどの日配品の夜間納品便を集約し、積載率と配送員の拘束時間を改善

・曜日別納品時間変更（常温商品） 25 年 1 月時点：11,300 店舗実施中

新規商品の発売により物量が多い月曜日、火曜日とその他の曜日の納品時間を変更し、物流波動に合わせたコース変更を実施し、積載率を向上

以上